



## 運動部だけでなく、吹奏楽部、美術部も大活躍です

学校だより6号でお知らせいたしましたが、7月19日(金)~22日(月)にかけて、ソフトボール部・男子ソフトテニス部・男子バスケットボール部・男子バレーボール部、陸上競技部、柔道部の総勢59名の生徒の皆さんが、山形県中学校総合体育大会に出場いたします。躍動する運動部だけでなく、文化部も大活躍しております。吹奏楽部は、来市している「ブラスト！」の歓迎会やアウトリーチを経験する中で大きく成長し、20日(土)には置賜地区吹奏楽コンクールに出場いたします。また、美術部は、すでに紹介している運動部を鼓舞する横断幕の作成のみならず、地域の方々の様々なご要望にお応えしながら活動しております。以下の写真は、両部の主な活動の様子ですので、ご覧いただき更なる赤中生の活躍を応援願います。

### 「ブラスト！」のアウトリーチで貴重な体験をする赤中吹奏楽部



### 職員室前に素敵な作品を飾ったり、グループホーム「ゆらり」にプレートを寄贈したりする赤中美術部



## 時代が変わります！～新紙幣への移行に伴って～

～ 7月2日(火)全校朝会時の校長講話より(一部抜粋) ～

今日はお金の話です。明日新紙幣が発行されます。20年ぶりです。今の一万札の肖像は福沢諭吉です。その前は誰だと思いませんか？ 聖徳太子です。現行の5,000円は樋口一葉、1,000円は野口英世、そしてもう一枚！2,000円札は守礼門 源氏物語絵巻 紫式部日記絵巻がデザインです。新紙幣が発行されても旧紙幣は使えます。もちろん聖徳太子の10,000円札も今も使えます。

なぜ今、新しい紙幣が発行されるのか？新紙幣を発行するのは、「偽造防止対策」の強化と、誰にとっても使いやすくする「ユニバーサルデザイン」の向上のためだそうです。紙幣のデザイン変更は、20年ほどの間隔で定期的に行われてきました。デジタルカメラやプリンター、スキャナーなどの技術がどんどん進化しています。ずっと同じお札だと偽札を作る人たちに研究する時間を与え、精度の高い偽札が出回る危険性があるのだそうです。

今回の新紙幣に導入されている偽造防止技術では、見る角度によって肖像の向きが変わる、顔が追いかけてくるように角度が変わる「3D(3次元)ホログラム」(世界初)や模様をさらに細かくした「高精細(こうせいさい)すき入れ(すかし)」などの新技術を取り入れました。偽札の発見枚数は1000万枚あたり、およそ1枚！その少なさは世界トップクラス。更に、表面の額面表記も、「壹万円」から「10,000」とアラビア数字に変更し、外国人も使いやすいデザインにしました。

デザインはどう変わるのでしょうか？ デザインは専門家などの助言を得て財務省が決定します。肖像の今の基準は、①明治以降の人物であること、②精密な写真が入手できる人物であること、③品格があり国民に広く知られている人物であることを条件に選ばれるそうです。

明日発行の新10,000円札は渋沢栄一、新5,000円札は津田梅子、新1,000円札は北里柴三郎が、それぞれ新たな肖像となり、デザインが変更されます。1,000円札の渋沢栄一は、「日本資本主義の父」、「近代日本経済の父」等とよばれ、約500社の企業の設立や経営に関わった人物。日本経済に大きな影響を与えた人物。5,000円札は、日本で最初の女子留学生としてアメリカで学んだ津田梅子。後に、女子英学塾(現津田塾大学)を創立し女性教員の先駆けとなった人です。1,000円札は、北里柴三郎で、破傷風(はしょうふう)という病気の治療法を開発し、近代医学の基礎を築き「近代日本医学の父」と呼ばれる人物です。

また、「お札に斜めの線が複数ひかれてあるのは、さわると”でこぼこ”していて、目に障害のある人が触った感触で何円札かわかるようにしたもので、お札の種類ごとに線の位置を変えているそうです。これは「ユニバーサルデザイン」の考え方で、たくさんの人にとってお札を使いやすくするためです。キャッシュレスの時代ですが、紙幣や硬貨は実際に必要なもの。そして、お金は私たちが生活するうえで大切なものであり、生きていくうえで必要なものです。このタイミングでお金の大切さ、ありがたさを改めて考えていきましょう。



生徒の様子や活躍について、ホームページでも紹介しております。

<http://www.akatyuu.sakura.ne.jp/>

